



平成 29 年 7 月 31 日
海事局 総務課
国際企画調整室

せきみず
關水康司 国際海事機関名誉事務局長が、国際海事賞を受賞

～国際海事機関第 118 回理事会の結果概要～

国際海事機関（IMO）は、第 118 回理事会（C118）を 7 月 24 日から 28 日までロンドンで開催しました。

今次会合では、日本人初の IMO 事務局長であった關水康司 IMO 名誉事務局長の国際海事賞（International Maritime Prize）受賞が決定しました。

また、我が国をはじめとするアジア等の主要造船団体が参加している Active Shipbuilding Experts' Federation（ASEF）^{エイセフ} *1が、我が国を含めた多くの国の支持により、IMO のオブザーバーステータスを取得しました。

今次会合の主要な審議事項は以下のとおりです。

1. 2016 年国際海事賞

国際海事賞とは、IMO の活動等に多大な貢献をした個人又は非政府組織に対し、IMO が表彰するもので、1980 年から基本的に毎年 1 名に授与されております。

今次会合では、關水康司 IMO 名誉事務局長の国際海事賞の受賞が決定しました。 關水氏の同賞受賞は日本人として 3 人目 *2 となります。

關水氏は、日本人初の IMO 事務局長として、2012 年 1 月から 2015 年 12 月までの間、国際海運からの温室効果ガス排出削減に対する取組みの推進、海賊対策の強化等を果たし、その貢献が認められました。

なお、授賞式は本年 11 月に開催される第 30 回総会において行われる予定です。

2. 非政府組織に対するオブザーバーステータス付与

ASEF は、公益財団法人 日本財団の支援のもと、一般財団法人 日本船舶技術研究協会が調整役となって 2015 年に設立された非政府組織で、我が国の一般社団法人 日本造船工業会をはじめとするアジア等の主要造船団体が参加しています。

今次会合では、ASEF が、我が国を含めた多くの国の支持により、2018 年よりオブザーバーとして IMO の各種会合に参加することが認められました。

ASEF がオブザーバーになったことにより、今後は世界の新造船建造量の約 9 割を占め、大型商船等を建造する日本、韓国及び中国等の造船業界の意見を直接 IMO に発信することが可能となり、これにより IMO の議論がより活性化していくことが期待されます。

なお今次会合において、ASEF の他、The Pew Charitable Trusts (Pew) ※³ に対しても、オブザーバーステータスが付与されました。

3. 2018 年から 2023 年の戦略計画

IMO の方向性及び目標のアウトラインを示すことを目的として、IMO においては 2004 年より戦略計画を策定しています。2014 年から、同計画の見直し作業を行っており、今回、2018 年から 2023 年の 6 カ年の戦略計画を取りまとめました。

戦略計画においては、特に今後 6 年間に IMO が取り組むべき重点分野（戦略的方向性）として、自動運航船の安全を含む「規制枠組みにおける新技術及び先進技術の取り込み」、国際海運からの温室効果ガス（GHG）削減を含む「気候変動への対応」等の 7 つの項目が記載されています。

2018 年より、海上安全委員会（MSC）や、海洋環境保護委員会（MEPC）等の各委員会、及び小委員会において、新たな戦略的計画に基づく審議等の活動が開始されることとなります。

※1 ASEF は、世界の造船産業界をけん引する日本、韓国、中国等 10 ヶ国の造船工業会等が加盟する世界的な造船業界団体として 2015 年 11 月 26 日に設立。日本より、一般社団法人 日本造船工業会が参加。

※2 過去には、1992 年に篠村義夫氏（元 IMO 事務局次長）、2014 年に笹川陽平氏（公益財団法人 日本財団会長）が受賞。

※3 Pew は、米国における海洋政策について主導的な役割を果たす等、海洋を取り巻く問題にも積極的に携わっているシンクタンク。1948 年設立、2002 年より非政府組織として活動を開始。

【問い合わせ先】

海事局総務課国際企画調整室 臼井、西村、宮西

代表：03-5253-8111（内線 45-601、44-401、44-403）

直通：03-5253-8656 FAX 03-5253-1642